

平成27年度岡山ESD推進協議会
岡山ESDプロジェクト活動支援助成金事業報告書

事業名 「世界の宝石-瀬戸内海」を磨く
～海底ごみ回収底引き網体験学習GOMIゼロ探検隊～

団体名 特定非営利活動法人グリーンパートナーおかやま 担当者名 藤原瑠美子

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

<p>1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）</p> <p>【日時】平成27年11月3日（祝）8時30分～16時</p> <p>【場所】香川県小豆郡土庄町 瀬戸内海国北部海面、四海漁業協同組合</p> <p>【参加対象者】環境省中国四国地方環境事務所、岡山後楽ライオンズクラブ他、一般など</p> <p>【人数】参加人数80名、スタッフ10名</p> <p>【内容】</p> <p>瀬戸内海に面した香川県小豆郡土庄町にて「海底ごみ回収底引き網体験学習」を実施しました。早朝新岡山港に集合し船で四海漁協へ向かいましたが、船の中では初の試みとしてNPO法人みんなのエコイク推進協会会長の安井レイ子氏による「クイズでエコ・シェフになろう！」のイベントを開催し、ソーラークッカーにより実際の調理を行ったり、ごみの出ない調理について実演があり、大人も子供も楽しく学びました。</p> <p>四海漁協の協力のもと底引き漁船を出していただき、参加者は遊覧船から回収作業を見学しました。魚とともにごみが回収される様子を見て、参加者からは驚きの声が上がっていました。</p> <p>下船後四海漁協で参加者でごみの分別調査をしました。当日回収したごみは少なかったものの、漁協で溜めていたごみも含め空き缶、ビニール袋、プラスチックなどに分別しました。</p> <p>その後漁協の会議室で、講話とワークショップを行い、まず中国四国地方環境事務所の溝手康人氏からは「海ごみについて」、同じく田代忠彦氏からは「海に生息する生物について」講演をいただきました。</p> <p>その後環境保全事業団環境学習センター「アスエコ」の中平さんの進行でワークショップを実施し、どんなごみが流れ海にどのような影響を与えるのかグループに分かれて話し合いをしました。</p>
<p>2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ</p> <p>「海ごみ」特に海底堆積ごみの最大の問題は、それが市民の日常からは見えないことにあるため、解決すべき問題と認識されないことにありました。</p>

そこで、漁業者の皆さんが網にごみがかかって困っていることを実際に体験してもらうとともに、ごみが自分たちの日常生活から出ていることを知ってもらうことで、多くの参加者に自分たちも当事者であることを認識してもらえようになりました。このことにより、そのままでは行き場のなかった「海ごみ」が、回収や発生抑制の対象となり、環境負荷の低減につながる取り組みへと繋がっています。

今回は講話の中に「生物多様性」や「生活の中でごみを減らすこと」などの視点を取り入れ、参加者に自分たちを取り巻く環境の大切さを認識していただける内容としました。

3. 取組の成果（参加者の変化、感想など）

実際にごみが海から上がってくる様子を見て、参加者は大変驚くとともに、自らごみの分別を行うことで、生活環境から発生したごみが多いことを実感していました。

今回も参加者の年齢や職業は多様で、従来から支援いただいている行政関係者をはじめとする様々な階層の参加者が、共通の課題に向き合うことで交流ができたことは、最大の成果です。

また、県境を越え、瀬戸内海に面した地域同士での交流も図れたことは、今後の問題解決の広がりが期待できるものです。

瀬戸内海の自然環境、ごみ問題などの課題を共有でき、ESD活動としての取組みが出来たと考えます。

4. 今後の課題と展望

【課題】

持続可能な活動とするためには、漁業者も含めすべてボランティアとするには限度があります。補助金・助成金に依存しない財政基盤の確立が急がれます。

そのためには、この問題にかかる行政の役割や位置づけを明確にすることが必要だと「考えます」。

さらには、流域住民や環境問題に取り組んでいる団体を含め、この問題の重要性に関する認識がまだ十分とは言えず、日常生活との関連も含め、持続的な広報啓発を行っていかねばなりません。

【展望】

瀬戸内海は我々の生活や文化と密接にかかわりがあります。「海ごみ」問題は、単に海にごみが溜まるという一面的なとらえ方だけではなく、自然環境を保全は最終的には人間の生活環境すなわち生命を守ることに繋がることを認識してもらい、今後の具体的な行動へつなげるきっかけにしたいと思います。

また、海の問題にとどまらず、途中の河川の問題や日常生活におけるごみのポイ捨て問題、さらには河川の源流にある山林の保全の問題にいたるまで、すべてが関連し繋がりを持つ問題であることを、体験を通じて認識してもらえよう取り組みを検討していきたい。

別紙

活動の様子

(1) 出発



安井レイコ氏による実演



ソーラークッカーを使って

(2) 開会式



開会式



三枝邦彦土庄町町長



穴山雅博四海漁業協同組合組合長



全員で記念写真

(3) 底曳網体験学習



ESDについて説明



底曳網船による回収

(4) ごみの分別



【集計結果】

大区分	小区分	個数 (個)	重量 (kg)
不燃物	スチール缶	73	6.1
	アルミ缶	154	不明
	ペットボトル	約 550	48
	レジ袋など		44.5
	ビンなど		6.8
燃えるごみ	流木など		11.3
		約 777	116.7

(5) ワークショップ

